

プレナリーセッション

WMOのUhlenbrook博士、つくば大学の日下教授、国立環境研究所の花崎博士、セネガル共和国Cheikh Anta Diop大学のGaye教授が登壇し、気候変動と土地利用の変化が世界の水資源に与える影響、都市気候研究の進展、西アフリカの水循環に関するデータと政策の連携が紹介されました。
(参加者300名)



ステークホルダー小2 [北海道開発局]

気候変動の緩和・適応策の社会実装に向けた地方自治体等の取組み



気候変動が社会や経済に与える影響、気候変動対策の社会実装を含めた政府や産業界の対応についての講演が行われた後、自治体等5つの機関が参加するパネルディスカッションが行われました。
(参加者82名)

ステークホルダー大 [環境省]

気候レジリエンス-科学的知見に基づく適応策の実践に向けて



気候レジリエンスの構築に向けた取り組みが議論されました。記録的な大雨や高温による気象災害や農作物の品質低下、水産資源の変化、熱中症増加への対応策が紹介された。環境省の研究プログラムを通じ、多様なステークホルダーとの連携の重要性が強調され、科学的知見を実践的な適応策にどう結びつけるかが活発に議論されました。(参加者83名)

ステークホルダー小1 [土木学会北海道支部]

温暖化が先鋭化する気候変動脆弱地域における水・地盤複合災害のリスク評価とその適応



気候変動に伴う今後の予測に対して、地域性を考慮した体系化、潜在的な被災危険度、災害リスクの総合評価、防災評価、今後の研究の方向性についての議論が行われました。(参加者48名)

学術セッション8

雲プロセス：雲の発達から力学的相互作用まで

雲エアロゾル相互作用のより良い理解や雲微物理過程のモデル表現の向上を目的とした研究成果が発表されました。(参加者100名)



学術セッション4

新たな技術とテクノロジー：気候改変からAIまで

気象や水文に関するAIを用いたモデルの高度化やデータ同化による予測モデルの高度化の研究成果が発表されました。(参加者40名)

学術セッション7

大気境界層と大気陸面相互作用

大気境界層内における観測キャンペーンと詳細な観測結果を検証データとした数kmから数十m程度の解像度での数値計算に関する発表が行われました。(参加者182名)

学術セッション25

連鎖的・複合的事象への取組み

干ばつや洪水の影響、それらの発生メカニズムに関する研究成果が発表されました。(参加者80名)

学術セッション10

モンスーン (インド気象局150周年記念特別セッション)

インド気象局150周年を記念したセッションが開催され、地球気候モデルにおける再現性などが議論されました。(参加者80名)

バンケット

7月10日の夕方には、バンケットが開催されました。中央大学の福岡機構教授、総合地球環境学研究所の安成名誉教授による来賓挨拶、東京大学の沖教授によるナイトレクチャーと「ストックホルム水大賞」「紫綬褒章」のお祝い、鏡割りとアイヌ古式舞踊の披露をもって日本、北海道への歓迎の意を示した。

